

「神の言葉イエス」

ヨハネによる福音書 1 章

- 1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
- 2 この言は、初めに神と共にあった。
- 3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。
- 4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。
- 5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。
- 6 神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。
- 7 彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。
- 8 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。
- 9 その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。
- 10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。
- 11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。
- 12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。
- 13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。
- 14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。
- 15 ヨハネは、この方について証しをし、声を張り上げて言った。「『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。
- わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである。」
- 16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。
- 17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。
- 18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

有名なヨハネによる福音書の冒頭の部分です。

ふと気づいたのですが、この「言」の部分に「無から有を創造する力を持つ神の御子イエス」と入れると、内容がとてもわかりやすくなります。

もちろん、あえて「言」という表現が使われたのはもう少し深淵な意味があるのだと思いますが、わからないまま読むよりも、少し理解できた方が良いと思うので、「神の御子イエス」と置き換えてみたいと思いました。

- 1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
- 2 この言は、初めに神と共にあった。
- 3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

1 初めに無から有を創造する力を持つ神の御子イエスがおられた。無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは神と共にあった。

無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは神であった。

2 この無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは、初めに神と共にあった。

3 万物は無から有を創造する力を持つ神の御子イエスによって成った。成ったもので、無から有を創造する力を持つ神の御子イエスによらずに成ったものは何一つなかった。

4 無から有を創造する力を持つ神の御子イエスの内に命があった。命は人間を照らす光であった。

そして

10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。

11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、

恵みと真理とに満ちていた。

10 無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは世にあった。

世は無から有を創造する力を持つ神の御子イエスによって成ったが、世は無から有を創造する力を持つ神の御子イエスを認めなかった。

11 無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

12 しかし、無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

14 無から有を創造する力を持つ神の御子イエスは肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての

栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

そして後半にはイエス様の名前が表明されていて

16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。

17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。

18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

となっています。

ヨハネによる福音書は、まさにこの無から有を創造する力を持つ神の御子イエス・キリストを信頼することを励ますために書かれた書物です。

そして、この 1 章にはすでにイエス様の生涯が描かれています。

イエス様がこの世にこられ、神の恵みと真理を表明し、神様ご自身を指し示すために来られたのに、受け入れられなかったこと、

すなわち十字架刑に処されたことが書かれているのです。
しかし、そんな中でこの方を信頼し、自分の人生を託す人に対しては「神の子」としての資格をお与えくださることが
約束されています。

大きな福音の序文と言っても良いと思います。
今回からゆっくりヨハネによる福音書を感じ取って行きたいと思います。

今回は
御子イエス・キリストは、いわゆる普通の人が悟りを得て、救い主に祭り上げられたのとは違う、正真正銘
神の独り子として永遠の昔からおられ、すべてのものの創造にさえも関与しておられた尊い存在であること

救いの言葉と救いの手段をお示しになり、神の恵みと真理とを分かち合うようにこの世に来られた救い主
御子イエス・キリストを否定する人たちもいるけれど、心に促しを得て、御子イエス・キリストを信頼するなら
神の子としての資格・特権を得ることができる、すなわち、神との関係を濃厚に味わうことができる福音を
分かち合ってください

神の本質的な愛、真理、憐れみ、威厳、義、赦しなどは、御子イエス・キリストを通して明確に
わかるようになる。

* * *
ヨハネによる福音書は、これらのことを私たちに訴えているのです。

* * *
MACF 礼拝映像はこちらです
https://youtu.be/6UbKSGwO_00